

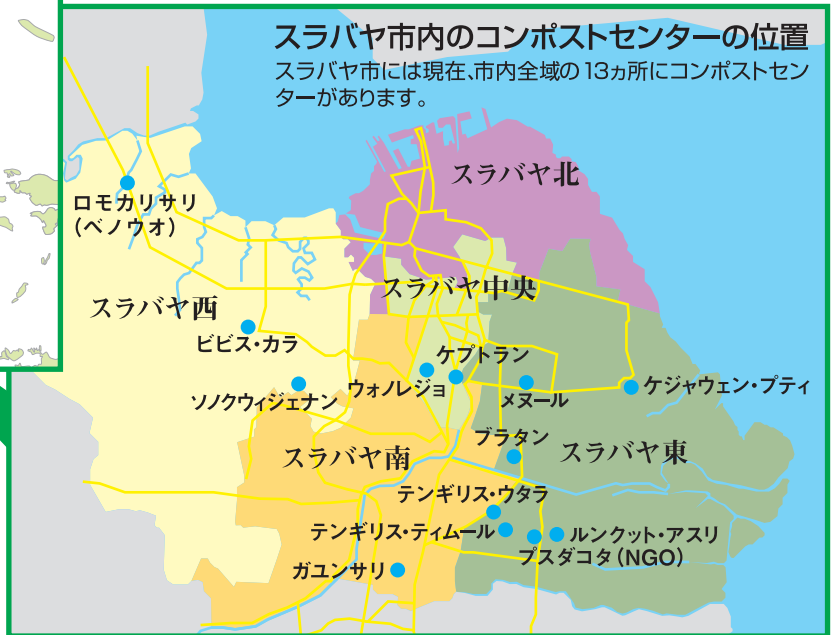
インドネシア・スラバヤ市におけるごみ発生量20%削減

インドネシア・スラバヤ市では生ごみコンポスト化の積極的な推進により、4年間でごみ発生量20%以上の削減に成功しました。2005年以前は一日1,500トン以上発生していた廃棄物が、2007年には平均1,300トンに、2008年には平均1,150トンにまで減少しました。ここではこれがどのように達成できたかを見ていきます。



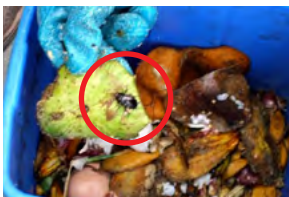
- [凡例]
- 現地NGOの活動によりコンポスト化の取組が普及した都市(普及しつつある都市)
 - 北九州市とIGESの活動によりコンポスト化の取組が普及した都市(普及しつつある都市)
 - ◎ 両方のケース

- スラバヤ市は人口300万のインドネシア第2の都市です。
- スラバヤ市で始まったコンポスト手法は現地NGOや北九州市、IGESなどの活動を通じ、国内外の40都市以上に普及しています。



スラバヤ市内のコンポストセンターの位置
スラバヤ市には現在、市内全域の13カ所にコンポストセンターがあります。

生ごみのコンポスト化推進による社会環境効果



家庭の生ごみに発生していたゴキブリ。



ごみ回収日までビニール袋に入れ生ごみを壁につるしていた。



今では各家庭で生ごみをそのまま衛生的にコンポスト化。

家庭用コンポスト・バスケットの普及により家庭の衛生環境がきれいになった。



以前の状況。



コンポストの利用により、緑でいっぱいになった通り。

コンポストの利用により通りが緑に。

コンポストの販売やコンポストを利用した植物や野菜の生産が住民の収入源に。コンポストセンターが雇用を創出。



コンポスト・センターでの雇用。



コンポストを利用した葉草や苗木の育成。



コンポストを利用した野菜の生産。



家庭で生産したコンポストの買取り。



生産したコンポストの販売。

スラバヤ市が取り組んだこと

家庭用コンポスト・バスケットの無償配布とコンポスト・センターの設立

スラバヤ市における家庭用コンポスト・バスケットの普及とコンポスト・センターの設立

スラバヤ市は4年間に16,000個の家庭用コンポスト・バスケットを無償配布しました。個人購入した分を含め、その普及数は17,000個になります。

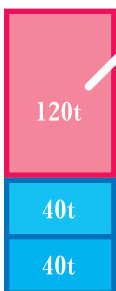
スラバヤ市には現在、13カ所のコンポスト・センターがあります。これは2004年12月に北九州市の協力により改修したプスタコタ(現地NGO)のコンポスト・センターをモデルに、スラバヤ市が既存のコンポスト・センター3カ所で採用し、さらに新たに9カ所を新設したものです。



ベノウォ最終処分場における日平均廃棄物受入量 2004-2008年

その結果スラバヤ市のごみ発生量が
20%以上減少!

1日あたりのごみ削減量200トンの内訳は…



1日あたりのごみ削減量200トン(2005年の1,500トンが2007年に1,300トン)のうち、多く見積もっても、40トンが13カ所のコンポストセンター、別の40トンが家庭でのコンポスト化によるもので、計80トンがコンポスト化による削減分です。残りの120トンは生ごみ以外のプラスチック、紙類、その他の資源ごみのリサイクル、リユースの促進による削減と推測されます。

これから、生ごみのコンポスト化を推進すると、家庭などの発生源でごみの分別が進み、その他のごみの大幅な削減にもつながるといえます。



2001年の状況



現在の街並みの様子



スラバヤ市の街並みはコンポスト化の取り組みの普及により、通りのごみがなくなり、緑あふれる美しい街に変わりました。



IGES
財団法人
地球環境戦略研究機関